

令和 3(2021)年 4 月 1 日

学校法人九州文化学園 中期計画
令和 3(2021)年度～令和 7(2025)年度(5 力年)

(抜粹版)

令和 2(2020)年 12 月 4 日

理事会決定

令和 5(2023)年 9 月 29 日

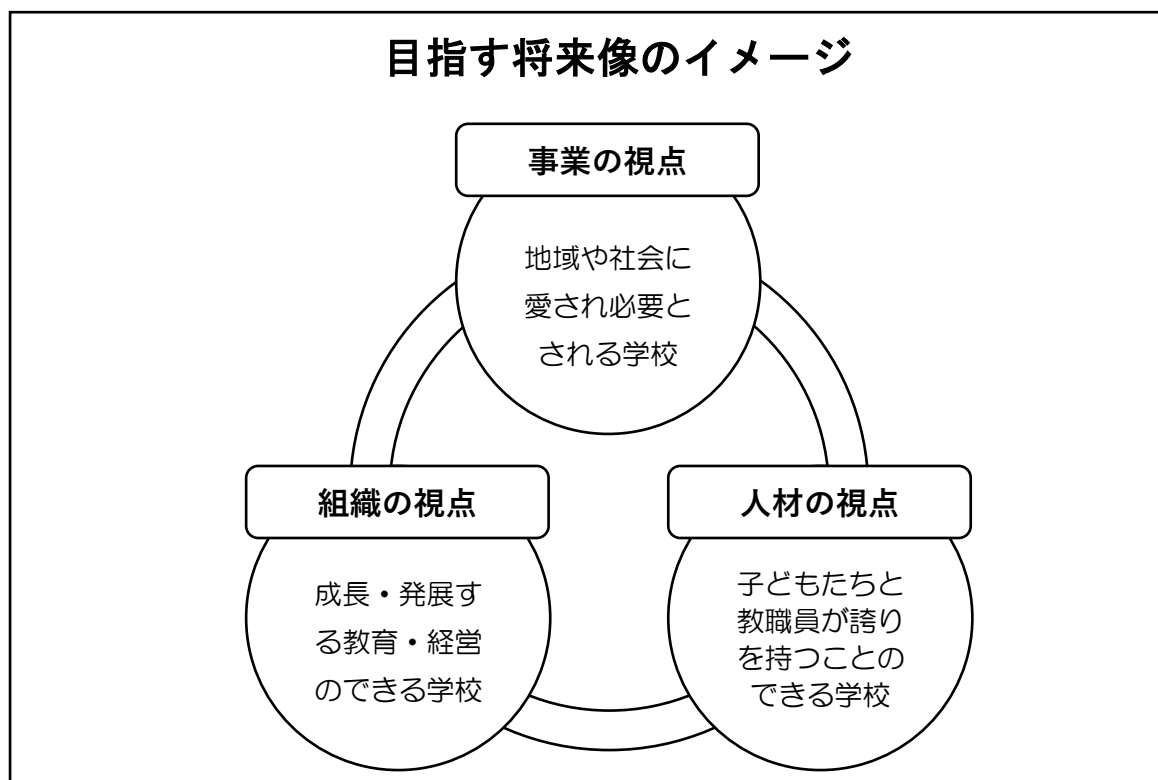
一部追加修正理事会決定

令和 6(2024)年 3 月 28 日

一部追加修正理事会決定

1. 建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像

- 母体となる財団法人九州文化学院は、女子教育に情熱と先見を持った創立者 安部芳雄氏により昭和 20(1945)年に設立された。昭和 26(1951)年には学校法人九州文化学園に昇格し、「学園の教育理想」を要約した「高い知性と豊かな教養」、「優れた徳性と品格」、「たくましい意志と健康な身体」の備わった人間を育てることを理念とし、幼稚園、高等学校、専修学校、大学を順次開設し、平成 31(2019)年には小中学校を新設し、名実ともに総合学園となった。
- 本学園は、令和 2(2020)年には創立から 75 年の歴史を刻み、総合学園として九州西部地域における教育と知の拠点となることを目指している。地域の人口減少や世界的な感染症拡大という私立学校にあっては厳しい環境の中、各設置校で一定の入学者を確保し、学園全体で 4,000 名を超える在籍学生等数を抱えることができているのは、地域からの評価の表れである。
- 本学園は、地域の人材を育成し、地域創生の要となる責任と義務を負い、期待を寄せられている。中期計画では、本学園の建学の精神に基づき、6つの戦略を掲げ、また学園内の連携強化もこれまで以上に推進することで教育の質を高め、特色に富んだ教育改革を進め、高い教育成果を達成し、地域のあらゆるステークホルダーの高い評価を得て、継続性を持つ学園運営を行うこととする。
- そのため具体的な将来像のイメージとしては以下の 3 点を目指すこととする。



- そのために各設置校では、建学の理念・精神・校訓、教育目的等に基づいて、5 ヵ年の経営理念と経営目標を掲げ、前中期計画のレビューと現状分析を行い、戦略区分に基づく中核実施計画や学園内の連携促進策、付随計画を定め、また課題を認識した上で、3つの基本方針の達成に向けて取り組むこととする。

2. 計画期間における重点戦略と達成目標及び財務上の数値目標、達成期限について

(1) 基本方針

- 今回の中期計画においては、次の3点を基本方針としている。

| | | |
|---|------------|---|
| 1 | 成長力の確保 | 学園や各機関として、現状維持ではなく成長すること、またその原動力を確保することを目指す。 |
| 2 | 教育力の向上 | 学校として教育の質を向上すること、教育組織や教職員個々の能力を高めることを目指す。 |
| 3 | 約定返済の確実な履行 | 毎年度の事業収支や自己資金を目標通り確保し、借入金を約定通りに返済することのできる安定した財務体質を形成することを目指す。 |

(2) 重点戦略と達成目標

- 上記の基本方針に基づき、今回の中期計画では以下の6つを重点戦略と達成目標を掲げ、毎年度の事業計画に具体的な事業・施策として落とし込み、目標の達成に向けて取り組んでいくこととする。

| | |
|--|---|
| 【戦略Ⅰ】 建学の精神・理念に基づく人財養成と内部質保証の担保 | |
| 達成目標 | ① 建学の精神の教職員への浸透と共有、尊重する風土の形成 ② 建学の精神に基づく人的資源の確保・育成 ③ 本学園の教育について内部質保証のできる組織の形成 |

| | |
|---|--|
| 【戦略Ⅱ】 成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実 | |
| 達成目標 | ① 継続的に成長・発展できる教育力や成長力の獲得 ② 伸長度合いを確認・検証できる教学や経営情報の見える化 ③ 社会に貢献できる人材を輩出するキャリアデザイン支援の構築 |

| | |
|--|--|
| 【戦略Ⅲ】 グローバル化と社会連携の強化、ステークホルダーとの関係強化 | |
| 達成目標 | ① With コロナ、After コロナ下でも実現できるグローバル化の構築 ② 地域と連携・協働した教育・研究・学生等支援体制の強化 ③ 保護者や卒業生、教職員OBとの関係性の強化 |

| | |
|--|---|
| 【戦略Ⅳ】 ICT化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上と経営の効率化 | |
| 達成目標 | ① ICTを活用した教育・研究環境の整備と教育改革の実施 ② ICTを活用した業務効率化の推進と利用者の意識改革の実施 ③ ICT環境導入を実現できる資金確保策の実施 |

| | |
|--|---|
| 【戦略Ⅴ】 認知度やブランド力の向上と入学定員・収容定員の充足 | |
| 達成目標 | ① 認知度向上やブランドアップを効果的に推進する仕組みの構築 ② 教職員に対するインナーリレーション強化策の実施 |

| | |
|----------------------------------|---|
| 【戦略Ⅵ】 財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化 | |
| 達成目標 | ① 定員確保による学納金収入や補助金・寄付金・外部資金等の獲得による収入の最大化 ② 人件費や経費の効果的な支出と適正水準の維持 ③ 約定返済の確実な履行 ④ 法人本部及び各設置校で機動的な組織運営を遂行できる体制の整備 |

(3) 財務上の数値目標、達成期限について

- 日本私立学校振興・共済事業団が学校法人の経営改善に資するために規定している定量的な「経営判断指標」に基づく経営状態の区分の「A2段階」（学園全体で直近3年のうち2年以上、10%の経常収支差額が出せる財務状況）を目指す。

| | |
|-----|--------|
| 機関名 | 長崎国際大学 |
|-----|--------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | | | | | | |
|----------------|--|--|--|--|--|--|
| 5カ年の 部門経営理念 | 3S、speed、service、scientificに遂行する | | | | | |
| 5カ年の 部門経営目標 | 様々なメソッドを用い広報活動の強化に努める。Withコロナを念頭に置き安全、安心の中で、合理的経営を図る | | | | | |

| 戦略 | 戦略Ⅰ | | 戦略Ⅱ | | 戦略Ⅲ | | 戦略Ⅳ | | 戦略Ⅴ | | 戦略Ⅵ | |
|----------|-------------------------------|---|---|--|--|--|---|--|-------------------------------|--|-------------------------|--|
| | 建学の精神・理念に基づく人材養成と 内部質保証の担保 | | 成長・発展のための教育改革と キャリア教育・支援の充実 | | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上 | | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 | |
| 目標 設定 | 理想水準 | <ul style="list-style-type: none"> 建学の理念を身につけ、社会が求める人材を輩出する組織の確立 学修者本位の教育の確実な実施 学生の満足度が高く、主体的に学習に取り組む学生を育成する組織の確立 建学の精神と理念を理解し、各学科DPに沿った地域貢献ができるリーダー人材の輩出 | <ul style="list-style-type: none"> 地方創生・地域を支える人材育成を目指し、地域の産業界や地方公共団体と協力し、将来像となる地域の高等教育ブランドデザインを策定の上、知識基盤のプラットフォームという役割を担っている 日本国籍卒業生就職率100%、留学生卒業生国内就職率80%達成 身に付けた専門知識を生かして、学生全員がインターンシップを経験し、キャリアを主体的に選択できる 4学科の授業全てにキャリア教育科目の配置 | <ul style="list-style-type: none"> 海外学術交流協定校の外部委員による世界水準の教育の点検・評価 カリキュラムのグローバルスタンダード化 学生の英語力向上を目指し、語学の自律的学習支援施設の整備を行い、日常的に英語に触れられる環境整備の上、英語による専門科目の講義を各学部で充実させ、専門的な使える英語力の向上 保護者、卒業生、実習施設、行政、民間企業、卒業生の就職先などとの連携強化による、志願者、就職者、共同研究などの発展 | <ul style="list-style-type: none"> 学位等の国際通用性を確保することを前提に、海外協定大学との連携を通して、場所や時間を問わないMOOC（大規模公開オンライン講座）等のシステムを活用し、新たな海外展開教育プログラムを構築する 遠隔授業と対面授業を自由選択可能とし、日本全国・世界各地での受講を可能とする 研究・実習棟にICT機器・設備が設置され、それらを活用した実践的な実習、演習が個々の教員と学生間で実施できる | <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の目標達成に加えて1年次入学定員460名の全ての学科と編入生及び大学院の専攻における定員の目標達成 各種国家試験の合格率100% 欧米や中国における学生募集・広報センターの開設 | <ul style="list-style-type: none"> 安定的な経常収支差額比率10%以上の確保 | | | | | |
| | 努力水準 | <ul style="list-style-type: none"> 教育基盤センターの機能充実 全学教育、特に初年次教育の確立 KPI指標の達成と学生満足度質的向上 建学の精神と理念を理解し、各学科DPに沿った地域貢献ができる一定数の人材の輩出 | <ul style="list-style-type: none"> 社会変化とポリシーの整合性を常に点検し、教育目的の達成のためには柔軟に教育課程の再編成 体系的で組織的な大学教育を、点検・評価を通じた改善を行う教学マネジメントを確立 修学機会が多様化を目指し、クォーター制導入検討 リカレント教育の充実を図る 日本国籍卒業生就職率95%、留学生卒業生国内就職率75%達成 就職を希望する学生全員がインターンシップを経験 | <ul style="list-style-type: none"> 海外学術交流協定校への教員派遣及び先方からの教員招聘（半年・通年） グローバル社会で必要となる英語によるコミュニケーション能力を高めるために、体系的・構造的な教育課程を編成。 留学生の多国籍化を目指すとともに、正規留学生を300名程度に増やす(令和2(2020)年5月270名) 学生派遣を年間120人に増やす(令和元(2019)年度60名) | <ul style="list-style-type: none"> ICT教育の企画・立案を行う専門委員会及び専門部署を立ち上げ、予算の裏付けがあるICT戦略を策定する 学生情報成績管理等IR運動基幹システムの構築 教員は自身が担当する科目において、ICTを活用したカリキュラムを作成し実施できる 遠隔授業のための録画・配信設備を全教室に設置 | <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の目標達成に加えて1年次入学定員460名の全ての学科毎における目標達成 各種国家試験全国平均を上回る合格率の達成 安定した留学生数確保のため、欧米諸国からの受入体制の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 経常収支差額比率10%以上の確保 寄付金募集活動の積極的展開 | | | | | |
| | 必達水準 | <ul style="list-style-type: none"> 教育基盤センターの機能整備 全学教育、特に初年次教育科目の充実 KPI指標設定と公表・学生満足度向上 建学の精神と理念を理解し、各学科DPに沿った地域貢献ができる人材の輩出 建学の精神を理解・周知・醸成のためのFD・SDの実施 | <ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業の利点を活用したカリキュラム改革 SDGsを視野に入れ、社会人や留学生などの多様な学生を受け止める柔軟なガバナンスを構築 学修成果の見える化を前提とし、点検・評価を通じた改善を行う教学マネジメントを確立 日本国籍卒業生就職率90%、留学生卒業生国内就職率75%達成 | <ul style="list-style-type: none"> 初年次の外国人留学生に対する日本語教育の充実 英語コミュニケーション能力を効率的に高めるための教育課程・教育方法の検討 保護者との親密な連携を図り、学生の教育・指導を行う | <ul style="list-style-type: none"> Society5.0を視野に入れたICT技術を活用した科目をさらに充実させる 補助金制度を活用したICT等の設備・施設を計画的に充実することで、教員と学生がICTに関する知識と機器を所有し、それらを利用できるようにする | <ul style="list-style-type: none"> 大学院・編入も含めた入学定員530名の確保 各種国家試験合格率の向上 大学ブランドを向上させる戦略的広報の展開 | <ul style="list-style-type: none"> 毎年度の当初予算における経常収支差額の達成 学納金収入の維持 新たな寄付募金活動の推進、補助金の戦略的な獲得、研究・社会連携事業に係る外部資金の獲得等収入源の多様化の推進 教職員、学生の安全、安心のため、NIU疾患検査センター、利休庵診療所を進展させ、その延長上に、学内薬局設立を考え体制を整える | | | | | |

| | | | |
|-------------------------|---|--------------------|---|
| <p>学園内の連携促進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・総合学園としての建学の理念の具現化とその成果の測定に関する基準の策定のための連携 ・小学校から大学・大学院まで一貫した地域学習のカリキュラム(観光、福祉)の構築 ・薬学部教員と学園内の学校と連携した共同研究の推進、九州文化学園幼稚園・九州文化学園小中学校の栄養教諭と連携した食育の推進、長崎短期大学食物栄養コースとの共同研究の推進、九州文化学園高校体育系クラブの選手に対するスポーツ栄養学的指導・食事介入などの推進 ・初等中等教育からの接続を意識した、高等教育における「学び」の再構築 ・本学・長崎短期大学・調理師専門学校・歯科衛生士学院間での募集連携 ・学園内の学校保健関係の情報共有を行い、各設置校で統一できる部分の体制構築や整備 ・九州文化学園高校から薬学部進学ルート確保のため、高校へ理系特進クラス設置等、高大連携による体制強化に向けた具体的協議 ・学園内共通の会計・学費管理ソフトの利便性を更に高めるべく、新ソフト導入も視野に入れた検討チームを学園内に立ち上げ、連携促進を図る | <p>5カ年の新規・特別課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・クォーター制の導入 ・ICTの活用や促進・管理する体制及び機器の整備 ・教学、学生、IR、財務情報等のシステムの統一 ・教学IRの迅速なレポートのためにデータカタログの統一化とデータベースの構築 ・関係機関等との研修・研究等に関する連携・協力体制の一層の強化 ・中規模以上の多目的教室棟の検討 ・学生の福利厚生複合施設、学生会館、クラブハウスの検討 ・学食スペースの拡充・座席数増設の検討 ・会計事務処理の効率化(ペーパーレス化)、科研費業務のシステム導入、寮費関係事務処理の外部委託 ・施設、設備、研究機器等の経年劣化(老朽化)に伴う計画的整備(更新) ・施設、設備、機器等の管理・運用業務等の軽減、効率化による新たな取組の充実 ・外部資金獲得 |
| <p>計画の進捗管理と社会変化への対応</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定について、学部内に中期計画実施委員会を設置して進捗管理を行い、毎年、年度末の決まった時期に努力水準の内容の実施が認められるかについてPDCAサイクルにより検討し、社会変化への対応を図る ・毎年度、年次事業計画進捗状況を中間報告及び事業報告書に取りまとめ、進捗管理を図る | <p>将来構想と長期的展開</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部にICTに特化した新たな学科の創設(例：国際情報学科) ・近隣の総合病院との協定に基づいて健康管理学研究科に臨床栄養実践コースの設置、食育支援センターの設置、スポーツ栄養支援センター設置 ・学園内総合情報システムの導入 ・リカレント教育も含めた地域の高等教育機関としての役割と取組の充実 ・「スポーツ分野」における「地方創生」のロールモデルを目指す ・駅誘致 ・佐世保市公共施設(新支所・公民館)及び国際交流会館(英語学習施設)を併設した複合公共施設誘致 |

| | |
|-----|--------|
| 機関名 | 長崎短期大学 |
|-----|--------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|--|--|--|--|
| 5カ年の 部門経営理念 | For Community and With Community 地域中核人材育成・地域と成長する日本版コミュニティーカレッジ | | | | | |
| 5カ年の 部門経営目標 | ・教職協働による学生支援の充実 ・ICTを活用した教育環境の高度化 ・定員充足による財務基盤の安定と国家試験合格率の向上 | | | | | |

| 戦略 | 戦略Ⅰ | 戦略Ⅱ | 戦略Ⅲ | 戦略Ⅳ | 戦略Ⅴ | 戦略Ⅵ | |
|----------|-------------------------------|--|--|---|---|---|--|
| | 建学の精神・理念に基づく人材養成と 内部質保証の担保 | 成長・発展のための教育改革と キャリア教育・支援の充実 | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上と経営の効率化 | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 | |
| 目標 設定 | 理想水準 | <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識、技能の実践 (国家試験合格率100%、栄養士 実力認定試験A評価100%) 茶道文化のさらなる情報発信 及び地域・国際交流の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 地域における各職種リーダー 養成(キャリア形成支援、リカレ ント教育) IRデータによる教育改革 (キャリア教育プログラム開発) | <ul style="list-style-type: none"> 海外留学生数の増加 (姉妹校との連携) 保護者面談の強化 (最低1回以上の面談) 寄付金受入れ強化 (寄付募集に事業化) | <ul style="list-style-type: none"> クラウド化によるテレワーク 環境整備 学園共通のネットワークシステ ム構築 | <ul style="list-style-type: none"> 国家試験及び資格試験の合格率 100% 産学共同によるブランド商品の 開発 国内外大学への編入(実績)強化 | <ul style="list-style-type: none"> 経営判断指標「A2」の実現 |
| | 努力水準 | <ul style="list-style-type: none"> 教育成果の可視化による授業 改善(遠隔授業の質の向上、 栄養士実力認定試験A評価80%) 茶道文化の授業内容の改善 | <ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド授業のカリキュラ ム構築(対面・オンデマンド・ オンライン) 就職率の向上(100%) リカレント教育機関としての 機能検討 | <ul style="list-style-type: none"> 研究促進による発信力強化 (共同研究) 支部設立と定例開催 (同窓会・保護者会) 卒業生子弟及び在学生兄弟向け 減免制度の創設 | <ul style="list-style-type: none"> 学生全員の個人PC・タブレット 所持 高速インターネット環境の整備 先進的な教育体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> 国家試験及び資格試験の合格率 100% 総合学園としてのブランド化 教育力・研究力を生かした産学 官連携 マスメディア利用による認知度 向上 長崎国際大学への編入強化 | <ul style="list-style-type: none"> 入学定員100%死守 外部資金の獲得推進 一般補助・特別補助が取得でき る教育改革(カリキュラム等) の実施 |
| | 必達水準 | <ul style="list-style-type: none"> FD・SDの計画的な実施による 教職員の意識改革 | <ul style="list-style-type: none"> 就職率向上 インターンシップの推進強化 卒業生との交流会等の検討 | <ul style="list-style-type: none"> インターンシップ先との連携 強化 ネットワーク活用による海外 大学との交流授業等の推進 同窓会機能の強化 | <ul style="list-style-type: none"> インターネット環境の改善(有線 LAN、無線アクセスポイント等) 電子黒板、プロジェクター等 の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 進学ガイダンスによる入学志願 者確保 オープンキャンパス参加者増強 SNS利用による情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> 経常収支差額の黒字確保 減免制度及び学費の見直し検討 |

| | | | |
|----------------------|---|-----------------|--|
| 学園内の 連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> 九州文化学園幼稚園、九州文化学園小中学校に対する進学説明会(保護者会) 高大連携(内部進学増強・語学学習連携・食物調理科、及び福祉科) IT関連に詳しい人材の採用 | 5カ年の 新規・特別課題 | <ul style="list-style-type: none"> セメスター制 or クォーター制の統一 ICT化による教育環境の整備 建物等教育関連施設の経年に伴う(大規模)リニューアル(校舎・体育館・空調等) 60周年記念事業の準備 |
| 計画の進捗管理と 社会変化への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 各施策のスケジュール化と運営会議による進捗管理 | 将来構想と 長期的展開 | <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献を見据えた新学科の設置(児童教育・IT系)、もしくは改組 各業界との連携による学科ブランド力の向上 各学科・コース、及び事務局の人材育成(キーマン) |

| | |
|-----|------------|
| 機関名 | 九州文化学園高等学校 |
|-----|------------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|--|--|--|--|
| 5ヵ年の 部門経営理念 | 広く国際的な視野に立ち、建学の精神を主体とした人間として大切な特性と品格の香り高さを身につけさせる人間教育を行う | | | | | |
| 5ヵ年の 部門経営目標 | 経営理念に則り、総合学園としての特徴を生かして知・情・意のバランスの取れた全人教育を基調とし、人間としての在り方・生き方を見据えて、生徒の夢の実現に努める | | | | | |

| 戦略 | 戦略Ⅰ | | 戦略Ⅱ | | 戦略Ⅲ | | 戦略Ⅳ | | 戦略Ⅴ | | 戦略Ⅵ | |
|----------|-------------------------------|---|--|---|---|--|---|--|-------------------------------|--|-------------------------|--|
| | 建学の精神・理念に基づく人財養成と 内部質保証の担保 | | 成長・発展のための教育改革と キャリア教育・支援の充実 | | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上と経営の効率化 | | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 | |
| 目標 設定 | 理想水準 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員においてバランスのとれた年齢構成人員を目指す 将来を見据えた人材の確保 | <ul style="list-style-type: none"> 内部進学75%を目指すためにグループ内上位校との連携強化(優先・優遇) | <ul style="list-style-type: none"> 海外姉妹校との交流復活(ICT活用を含む) 地域との連携・社会貢献に繋がる教育活動の充実及び各中学校との連携事業 生徒・保護者満足度90%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ICT活用の授業などでいかなる環境においても教育の指導や提供・活動ができる教育環境の整備 ICTを活用して海外との交流を充実させる | <ul style="list-style-type: none"> マスコミを通じて地域に根ざした教育活動を発信、周知の徹底 定員300名以上の入学者の確保し、30名10クラス学級を設置 | <ul style="list-style-type: none"> 経営判断指標「A2」の達成・維持 本校教職員以外に外部の専門機関(県・市・学校・医療機関等)の専門家を含めた組織運営とし生徒はもちろん、本校の未来を見据えた教育活動を展開する | | | | | |
| | 努力水準 | <ul style="list-style-type: none"> 主要教科(国・数・英)において、少なくとも各教科6名の専任確保 | <ul style="list-style-type: none"> 教科、担当部署(高校では分掌)の連携 教科・担当による企画会議等により総合学園の将来像の共有を図る | <ul style="list-style-type: none"> 各中学校との連携 地域との連携(合同会議・行事の推進) 同窓会との連携 生徒・保護者満足度85%以上 | <ul style="list-style-type: none"> リモート授業が可能な施設・機器の設置・充実 生徒が積極的に活用できる環境の提供 | <ul style="list-style-type: none"> 定員40名以上の学科・コースを2クラス編成にし、リモート授業ができる教育環境の整備を行う 広報活動の充実による地域及び各中学生への周知徹底 | <ul style="list-style-type: none"> 経営判断指標「A2」の達成に向け近年を上回る収支率の達成 学年や学科・コース、教科別の教員を配慮した組織に、校務分掌を加えた組織でより機動的・活動的なチーム編成とする(情報の共有化の徹底) | | | | | |
| | 必達水準 | <ul style="list-style-type: none"> 教科人員の精査、補充 | <ul style="list-style-type: none"> 総合学園として校種を越えた特色ある教育コースの設定 | <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携(合同会議・行事の推進) 生徒・保護者満足度80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 教師が何らかの方法を使ってリモート授業ができるように研究、実践を行う リモート授業が可能な環境を整る ICT教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 広報誌の発行やホームページ・Instagram等による発信により、本校の教育活動を周知を図る 定員250名以上の入学者を継続的に確保 | <ul style="list-style-type: none"> 財政基盤の安定：前年を上回る収支率の達成 学年や学科・コース別に教科担当職員を加え、バランスのとれたチーム編成とする(報告・連絡・相談の徹底) | | | | | |

| | | | |
|----------------------|--|-----------------|---|
| 学園内の 連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> 本校食物調理科と九州文化学園調理師専門学校や長崎短期大学・長崎国際大学の食物関係学科との連携授業 幼・小・中・高・短大・大学との国際化教育(英語教育)の連携事業 幼・小・中・高・短大・大学・専門学校の一貫した授業や行事・事業、さらに生徒・教員の交流 | 5ヵ年の 新規・特別課題 | <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領による学科・コースの教育内容充実 |
| 計画の進捗管理と 社会変化への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 社会の要請や求人状況、さらには中学生の希望状況を踏まえ、常に社会の変化に柔軟に対応できるよう情報収集に努める | 将来構想と 長期的展開 | <ul style="list-style-type: none"> 新定員に沿った施設・設備の充実 |

| | |
|-----|-----------|
| 機関名 | 九州文化学園中学校 |
|-----|-----------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | |
|----------------|---|
| 5ヵ年の 部門経営理念 | 変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する |
| 5ヵ年の 部門経営目標 | 英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成すると共に地域に貢献する |

| 戦略 | 戦略Ⅰ | 戦略Ⅱ | 戦略Ⅲ | 戦略Ⅳ | 戦略Ⅴ | 戦略Ⅵ | |
|----------|-------------------------------|--|---|-------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|-----------------|
| | 建学の精神・理念に基づく人財養成と 内部質保証の担保 | 成長・発展のための教育改革と キャリア教育・支援の充実 | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上と経営の効率化 | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 | |
| 目標 設定 | 理想水準 | ・イメージ教育の実践スキル を習得する ・教育のための先進的ITスキルを 習得する | ・イメージ教育を実践する ・ITを活用した先端教育を実践 する | ・グローバルな交流を本格化する | ・先端教育のためのアップデート されたICT環境を装備する | ・英語・IT教育の先進校としての ブランドを確立する | ・経常収支を安定的に黒字化する |
| | 努力水準 | ・イメージ教育の基本を理解 する | ・イメージ教育実践に向けた 準備を行う | ・グローバル化と地域貢献への 取組を強化する | ・ネットワーク回線強化とソフト ウェアのレベルアップを行う | ・県内で高い知名度を確立する | ・経常収支を単年度で黒字化する |
| | 必達水準 | ・英語力・IT活用力を高める ・児童の状況・能力に応じた指導 スキルを確立する | ・英語教育、IT教育を充実させる ・個々の生徒の状況・能力に応じ た教育を行う | ・地域、保護者との良好な関係を 構築する | ・校内ネットワークやICT機器類の 安定した運用を保証する | ・定員40名を充足する | ・経常収支赤字を漸次低減する |

| | | | |
|----------------------|---|-----------------|---|
| 学園内の 連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> 進学先について九州文化学園高校と連携する 長崎国際大学・長崎短期大学・九州文化学園高校等と連携して国際化教育を推進する 他設置校と連携した行事、事業、地域活動、生徒等や教職員の交流を行う | 5ヵ年の 新規・特別課題 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒数増加に伴う施設等の拡充 |
| 計画の進捗管理と 社会変化への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 半期毎に進捗を管理し校内・総合企画室に報告、必要に応じて修正を協議する | 将来構想と 長期的展開 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒収容キャパシティ逼迫に伴う他キャンパスへの分散 |

| | |
|-----|-----------|
| 機関名 | 九州文化学園小学校 |
|-----|-----------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|--|--|--|--|
| 5ヵ年の 部門経営理念 | 変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する | | | | | |
| 5ヵ年の 部門経営目標 | 英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成すると共に地域に貢献する | | | | | |

| 戦略 | | 戦略Ⅰ | 戦略Ⅱ | 戦略Ⅲ | 戦略Ⅳ | 戦略Ⅴ | 戦略Ⅵ |
|----------|------|--|---|----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|-------------------------|
| | | 建学の精神・理念に基づく人財養成と 内部質保証の担保 | 成長・発展のための教育改革と キャリア教育・支援の充実 | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上と経営の効率化 | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 |
| 目標 設定 | 理想水準 | ・イメージ教育の実践スキル を習得する ・教育のための先進的ITスキルを 習得する | ・イメージ教育を実践する ・ITを活用した先端教育を実践 する | — | ・先端教育のためのアップデート されたICT環境を装備する | ・英語・IT教育の先進校としての ブランドを確立する | ・経常収支を安定的に黒字化する |
| | 努力水準 | ・イメージ教育の基本を理解 する | ・イメージ教育実践に向けた 準備を行う | ・グローバル化と地域貢献への 取組を強化する | ・ネットワーク回線強化とソフト ウェアのレベルアップを行う | ・県内で高い知名度を確立する | ・経常収支を単年度で黒字化する |
| | 必達水準 | ・英語力・IT活用力を高める ・児童の状況・能力に応じた指導 スキルを確立する | ・英語教育、IT教育を充実させる ・個々の児童の状況・能力に応じ た教育を行う | ・地域、保護者との良好な関係を 構築する | ・校内ネットワークやICT機器類の 安定した運用を保証する | ・定員40名を充足する | ・経常収支赤字を漸次低減する |

| | | | |
|----------------------|---|-----------------|---|
| 学園内の 連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> 英語教育について九州文化学園幼稚園と連携する 長崎国際大学・長崎短期大学・九州文化学園高校等と連携して国際化教育を推進する 他設置校と連携した行事、事業、地域活動、児童等や教職員の交流を行う | 5ヵ年の 新規・特別課題 | <ul style="list-style-type: none"> 児童数増加に伴う施設等の拡充 |
| 計画の進捗管理と 社会変化への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 半期毎に進捗を管理し校内・総合企画室に報告、必要に応じて修正を協議する | 将来構想と 長期的展開 | <ul style="list-style-type: none"> 児童収容キャパシティ逼迫に伴う他キャンパスへの分散 |

| | |
|-----|-----------------|
| 機関名 | 認定こども園九州文化学園幼稚園 |
|-----|-----------------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | | | | | | |
|----------------|--|--|--|--|--|--|
| 5か年の 部門経営理念 | 園児ひとりひとりを大切にし、質の高い保育・教育を行う | | | | | |
| 5か年の 部門経営目標 | 強い身体と正しい心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続ける | | | | | |

| 戦略 | 戦略Ⅰ | 戦略Ⅱ | 戦略Ⅲ | 戦略Ⅳ | 戦略Ⅴ | 戦略Ⅵ | |
|----------|-------------------------------|--|----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|--|---------------|
| | 建学の精神・理念に基づく人財養成と 内部質保証の担保 | 成長・発展のための教育改革と キャリア教育・支援の充実 | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上と経営の効率化 | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 | |
| 目標 設定 | 理想水準 | — | — | — | — | — | |
| | 努力水準 | ・現職員への理念の浸透を図る ・高校、短大からの教育実習やインターンシップの受入れ ・主幹候補の育成と現主幹補佐体制作り | ・豊かな体験活動（お茶・英語・運動）と音楽活動の強化・充実を図る | ・職員の英語力の向上を目指す ・地域とのつながりを強める | ・保護者を含めた関係者・外部に子どもたちの活動の様子を動画配信する | ・広報活動の充実を図る ・九州文化学園小中学校、長崎短期大学、長崎国際大学との連携を強める | ・定員の確実な充足を図る |
| | 必達水準 | ・長崎短期大学卒の新規教員を毎年1名採用 | ・保育者の働いている姿を見せる | ・外国籍の子どもも含めて、子ども同士のコミュニケーションの活性化を図る | ・インターネット環境の整備を行う | ・HPの定期更新、動画配信 | ・保育料の確実な徴収を図る |

| | | | |
|----------------------|--|-----------------|--|
| 学園内の 連携促進 | ・職員研修に長崎短期大学・長崎国際大学から講師を派遣してもらう ・実習の受入れ ・大学教授による保護者への講演や学生による幼児向け活動の実施 ・九州文化学園小学校との連携 | 5か年の 新規・特別課題 | ・周年事業（75周年、移転20周年） ・駐車場の確保 ・正職員の増員 |
| 計画の進捗管理と 社会変化への対応 | — | 将来構想と 長期的展開 | — |

| | |
|-----|---------------|
| 機関名 | 九州文化学園調理師専門学校 |
|-----|---------------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|--|--|--|--|
| 5カ年の 部門経営理念 | 高度な調理技術の習得と社会に貢献できる調理師の育成 | | | | | |
| 5カ年の 部門経営目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主・自律を重んじ、積極的で意欲のある学生の育成 ・ 地域・社会に貢献できる専門性の高い調理師の育成 | | | | | |

| 戦略 | | 戦略Ⅰ | 戦略Ⅱ | 戦略Ⅲ | 戦略Ⅳ | 戦略Ⅴ | 戦略Ⅵ |
|----------|------|--|---|--|--|--|--|
| | | 建学の精神・理念に基づく人材養成と 内部質保証の担保 | 成長・発展のための教育改革と キャリア教育・支援の充実 | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上と経営の効率化 | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 |
| 目標 設定 | 理想水準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国トップクラスの調理業界への就職先の開拓 ・ 企画力の研修などを通して新たな食に関する開発力を養う | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高大連携としての高校単位での体験入学の新規開拓 ・ 遠隔入学生に対応するための学生寮の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 産学連携食品関連企業等とのコラボにおける食品開発 ・ 調理関連事業における各部門との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 無線LANの設置と学生へのiPadの配布 ・ 遠隔地から講師によるWEB講義・実習の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビコマーシャル等での情報発信 ・ 有名シティホテル等と提携し、人材の育成と就職先としての知名度の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定員確保に向けて学生募集関係制度と魅力ある教育活動の積極的な情報発信 ・ 専修学校への補助金増額の要望を長崎県専修学校各種学校連合会等を通じて関係機関へ働きかける |
| | 努力水準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理師として社会に貢献できる人材の育成 ・ 実習講師の人財発掘と高度な調理技術の習得 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の就職先としてのインターンシップ先の開拓 ・ 学生への就職情報の拡大 ・ 学生サポート制度の定着と新規企業奨学金の開拓 ・ 留学生の就職支援として農水省制度等の活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品関連企業等とのコラボにおける本校施設開放 ・ 学生就職先としての大都市有名ホテルとの提携先開拓 | <ul style="list-style-type: none"> ・ WEB入試の実施 ・ 留学生授業対応、Wi-Fi環境の整備 ・ SNS活用による情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連企業と提携し人材の育成の推進 ・ 地域の小中高校への出前授業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元(2019)年度実施調専テコ入れ策提言をもとに、収支赤字決算脱却のため学生在籍40名の確保 ・ 他設置校のサポート及び受験企業等による本校の情報発信強化 |
| | 必達水準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 即戦力となりうる人材の育成 ・ 礼儀作法が身についた人材の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ及び学生レストランの充実 ・ 文部科学省「修学支援金新制度」への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携の食育活動・料理教室等の実施 ・ 学生レストランの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ WEB授業(有線)の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生レストランを活用しての創作料理等でのマスコミからの情報発信 ・ HP等活用しての実習関係の動画情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省「修学支援金新制度」対象行への認定 ・ 「学生サポート制度」及び「社会人減免制度」周知による日本人学生25名の確保 ・ 日本語学校等との連携による留学生5名の確保 |

| | | | |
|----------------------|---|-----------------|--|
| 学園内の 連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム充実のための他設置校からの講師派遣 ・ 長崎国際大学・長崎短期大学学生の調理実習体験の実施及び高校の体験入学の実施 ・ オープンキャンパスの送迎バスの共同運行 ・ 総合学園広報としてのテレビ番組作成 ・ 学園内行事での調理分野貢献 ・ 留学生募集の情報交換 | 5カ年の 新規・特別課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の定着と職業実践専門課程認可申請の検討 ・ 校舎移転15年経過による、調理機器や学校施設設備の耐用年数期限による修繕費等の捻出 |
| 計画の進捗管理と 社会変化への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画を反映した事業計画の作成と年度末の事業報告書での達成状況の検証(学校関係者評価等を参照)の実施 ・ 入試改革及び関係業界のニーズの変容に対応した入試制度や教育内容等の検証・変更、また、新型コロナウイルス感染拡大防止による教育環境の変化への対応について学校関係者評価委員会などの外部資源の活用 | 将来構想と 長期的展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年課程の併設により社会人・高校中退者対象の入学者増を図る ・ 本校職員(調理師)のマスコミ出演及び学生全国レベル食品関係コンテスト入賞等による認知度の向上 |

| | |
|-----|---------------|
| 機関名 | 九州文化学園歯科衛生士学院 |
|-----|---------------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|--|--|--|--|
| 5カ年の 部門経営理念 | 資格取得の為の知識と高い技術を養い、社会に貢献しうる人間教育を目指す | | | | | |
| 5カ年の 部門経営目標 | 歯科衛生教育に関連する施設・行政等と連携し、有能な歯科衛生士育成教育を行う為、研修・研究を重ね学生指導に努める | | | | | |

| 戦略 | 戦略Ⅰ | | 戦略Ⅱ | | 戦略Ⅲ | | 戦略Ⅳ | | 戦略Ⅴ | | 戦略Ⅵ | |
|----------|---------------------------|---|--|---|--|--|--|--|-------------------------------|--|-------------------------|--|
| | 建学の精神・理念に基づく人材養成と内部質保証の担保 | | 成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実 | | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上と経営の効率化 | | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 | |
| 目標 設定 | 理想水準 | <ul style="list-style-type: none"> 多方面の分野に対応できる人材育成 歯科医師免許取得者の教員採用 | <ul style="list-style-type: none"> 専門職(短期)大学への移行推進 企業奨学金提携先の開拓 | <ul style="list-style-type: none"> 関係施設への全員参加型実習実施による学生及び学校のレベル向上 留学生・男子学生受入れの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ICT環境完備とI pad全員購入による学生間の学習内容共有による学習効果の向上 ICT活用に関する職員の指導力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> メディア(TV・広告等)活用による情報発信と継続的な募集活動の実施 専門職大学(3年課程)への移行 | <ul style="list-style-type: none"> 専門職(3年課程)大学移行による補助金助成増 学生募集専門職員の配置 | | | | | |
| | 努力水準 | <ul style="list-style-type: none"> 関係施設・病院実習内容の見直し 人格形成を目指した人間教育内容の見直し 指導力向上に向けた職員研修への参加 | <ul style="list-style-type: none"> 高大接続による入試改革、大学卒業の資格を有する歯科衛生士採用 実習内容の見直しと充実 臨床実習の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 希望者による関係施設・大学病院実習実施 市歯科医師会との連携による地域住民への予防歯科の啓蒙 | <ul style="list-style-type: none"> ICT活用方法の学生への提供 ICT機器の充実と職員研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 地元メディア(情報誌)活用による情報発信の実施 職業実践専門課程認可校・文部科学省「修学支援金新制度」対象校・専門実践教育給付金指定講座の周知徹底 | <ul style="list-style-type: none"> 大学卒業の歯科衛生士採用 財政面における支出内容の見直し | | | | | |
| | 必達水準 | <ul style="list-style-type: none"> 多分野での臨床実習実施 茶道教育を中心に据えた人間教育の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会開催 教育訓練給付金制度の継続 修学支援金新制度への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 市歯科医師会との連携による施設への教育訓練実施 各教育機関へのブラッシング指導の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ICT環境(有線)完備 職員のICT機器活用研修と必要時におけるZoom授業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス、進学ガイダンス等での情報発信の強化 ホームページでの動画を用いたの情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会の活用 専門実践教育給付金指定講座の周知と継続 修学支援金新制度への対応 | | | | | |

| | | | |
|----------------------|--|-----------------|---|
| 学園内の 連携促進 | <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム充実のための他部門からの講師派遣 オープンキャンパスの送迎バスの共同運行 総合学園広報としてのテレビ番組作成 九州文化学園小中学校及び九州文化学園幼稚園でのブラッシング指導の実施 九州文化学園高校からの体験入学の促進 | 5カ年の 新規・特別課題 | <ul style="list-style-type: none"> 専門職(3年課程)大学への移行 職員の高齢化に伴う若年層の採用 学生募集の強化(定員確保)による赤字財政の脱却 |
| 計画の進捗管理と 社会変化への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 中期計画を反映した事業計画の作成と年度末の事業報告書での達成状況の検証(学校関係者評価等を参照)の実施 入試改革及び関係業界のニーズの変容に対応した入試制度や教育内容等の検証・変更、また、新型コロナウイルス感染拡大防止による教育環境の変化への対応について学校関係者評価委員会などの外部資源の活用 | 将来構想と 長期的展開 | <ul style="list-style-type: none"> 専門職大学への移行と諸条件の整備、留学生、男子学生の受入れ検討と学生募集、事務職担当者の配置による学校経営健全化 |

| | |
|-----|-------|
| 機関名 | 法人事務局 |
|-----|-------|

| | | | | | | |
|-----------------|---|------------|---|----------|---|---------------|
| 九州文化学園 建学の精神 | 1 | 高い知性と豊かな教養 | 2 | 優れた徳性と品格 | 3 | たくましい意志と健康な身体 |
| 中期計画 基本方針 | 1 | 成長力の確保 | 2 | 教育力の向上 | 3 | 約定返済の確実な履行 |

| | | | | | | |
|----------------|--|--|--|--|--|--|
| 5ヵ年の 部門経営理念 | 学園全体として健全な経営状態と安定した財務基盤の確立を目指す | | | | | |
| 5ヵ年の 部門経営目標 | 学園全体として、日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標による経営状態「A2」を目指す | | | | | |

| 戦略 | 戦略Ⅰ | | 戦略Ⅱ | | 戦略Ⅲ | | 戦略Ⅳ | | 戦略Ⅴ | | 戦略Ⅵ | |
|----------|-------------------------------|---|--|--|---|---------------------------------|-------------------------------------|--|-------------------------------|--|-------------------------|--|
| | 建学の精神・理念に基づく 人財養成と内部質保証の担保 | | 成長・発展のための教育改革と キャリア教育・支援の充実 | | グローバル化と社会連携の強化 ステークホルダーとの関係強化 | | ICT化と施設設備の充実による 教育環境の魅力向上と経営の効率化 | | 認知度やブランド力の向上と 入学定員・収容定員の充足 | | 財政基盤の安定と 機動的な組織運営の強化 | |
| 目標 設定 | 理想水準 | ・常勤監事の配置 | ・総合学園として一貫性のある教育 改革の実施支援 | ・卒業生等の子どもが各部門に入 学・進学してくる魅力と関係性の 構築支援 | ・学園全体の施設設備・ICT資産を 総合的に管理する体制の構築支援 | ・幼稚園から大学まで一貫した内部 進学強化による定員確保 | ・学園全体で経常収支差額10%を 目指す | | | | | |
| | 努力水準 | ・内部監査室の設置 | ・各部門と連携した教育改革の促進 | ・同窓会はじめステークホルダーに よる寄付文化の醸成 | ・ICT活用による学園全体の業務の 効率化 ・システムや施設設備導入のための 資金の確保 | ・学園としての総合的な認知度や ブランド力向上 | ・学園全体で経常収支差額5%を 目指す | | | | | |
| | 必達水準 | ・ガバナンスコードに基づく監事 機能の充実 ・建学の理念を尊重する体制への 支援 | ・各部門の教育改革・キャリア支援 の総務・人事・財務面での後方 支援 | ・各部門と連携した同窓会との関係 性の総務・人事・財務面での強化 | ・各部門の実施するICT化やファシ リティ・マネジメントの総務・人 事・財務面での支援 | ・各部門と連携した認知度やブラン ド力向上支援 | ・不採算事業体の経営改善を促進 する | | | | | |

| | | | |
|----------------------|--------------------------------------|-----------------|--|
| 学園内の 連携促進 | ・幼稚園から大学まで、一貫した教育方針に基づき、効率的募集活動を促進する | 5ヵ年の 新規・特別課題 | ・学園内の部門間連携やステークホルダーとの関係性を強化し、総合学園としての地域における存在感を高める事業に積極的に取り組む |
| 計画の進捗管理と 社会変化への対応 | ・総合企画室の充実を図り、管理と対策を促進していく | 将来構想と 長期的展開 | ・学園の成長・発展のための新規投資案件に備え、自己資金の拡充に努める また財務状況を踏まえた上で、新規事業への挑戦も検討・計画する |